



漁業者らが織笠・船越漁港で清掃活動 利用者のマナー向上願ひ早朝作業

「海の環境を保全する会」では、7月11日に織笠漁港と船越漁港で清掃活動を行いました。参加したのは、同会を構成する三陸やまだ漁協と船越湾漁協の組合員約180人。早朝から2～3時間ほどかけ、各漁港での草刈りやごみ拾いに汗を流しました。集められたごみは、缶などのポイ捨てごみのほか、不法投棄された家電など合わせて約90kg。参加した養殖業の湊義行さん(織笠・62)は「少しの心がけできれいな海は守れると思います。漁業者も釣りで訪れる人もマナーを守って利用してほしいです」と訴えていました。

児童70人が船越公園で避難訓練 経路確認し津波災害に備える

7月14日、船越小学校(石川 修 司校長・児童70人)の全校児童による屋外避難訓練が船越公園で行われました。町と合同で行われたこの取り組みは、同公園で遊んでいても子どもたちだけで避難行動をとれるようにするのがねらい。児童らは津波の襲来を告げる防災無線の放送をきっかけに、同公園から最寄りの指定緊急避難所(長林コミュニティセンター)まで約1kmの避難経路を歩いて確認しました。訓練中は、6年生がリーダーとなって人数確認をしたり、下級生に声を掛けて誘導したりする姿が見られ、本番さながらの緊張感に包まれていました。菊地翔陽君(6年)は「船越公園からの避難方法が分かりました。災害が起きたら訓練を思い出して逃げたいです」と、真剣な面持ちで話していました。



船越小・山田高で防災学習



高校生が小学生に防災授業 命を守る行動など直伝

山田高校(晴山 俊 校長・生徒77人)の2、3年生13人は、7月1日に船越小学校の全校児童を対象に防災授業を行いました。NHK盛岡放送局が主催する震災伝承の取り組み「TENDENKOクラブ」の活動の一つで、先生役となった山田高生は、校外調査で学んだ震災の教訓などを基に授業を展開。津波の恐ろしさや地震が起きる仕組み、命を守る行動などをクイズ形式や身振り手振りで児童らに分かりやすく伝えていました。授業の中で中村 琉斗君(船越小4年)が「津波は人の命を奪うことが分かりました」と感想を伝えると、木村拓夢君(山田高3年)は「皆さんには海の恐ろしさと素晴らしさの両方を知ってほしいです」と、町の魅力にも触れながら、防災の大切さを力説していました。



町のわだい

今月の題字 森下 葉月さん（山田小6年）



織笠川・サケ人工第一ふ化場の清掃
（三陸やまだ漁協）【撮影：斉藤蘭さん】



取材の体験をする斉藤蘭さん(左)と上澤優愛さん(右)

山田中3年生が1日職場体験 働くことの意義や尊さ学ぶ

郷土の産業に理解を深め、職業への関心を高めてもらおうと、山田中学校(佐々木秀毅校長・生徒319人)では7月6日、職場体験学習を行いました。参加したのは3年生97人。スーパーや飲食店、美容院など町内28カ所の事業所や団体の協力を受け、それぞれ希望する職場に出向き、働くことの意義や尊さ、仕事の厳しさなどを学びました。このうち、役場総務課には女子生徒2人が訪れ、庁舎内の事務の様子を見学。広報担当と一緒に他の事業所などで体験学習に取り組む生徒の様子を取材しました。左の写真(2枚)は、同生徒が撮影したものです。



放水訓練の体験(山田消防署)【撮影：上澤優愛さん】

鯨館内で手芸作品を無料配布 女性団体が開館30周年盛り上げる

今月9日に開館30周年を迎えた鯨と海の科学館を盛り上げようと、町内でクジラなどをモチーフにした手芸作品を手掛ける「あんでねっと@やまだ」(西川カヤ代表)が、7月2日、作品100点を来館者に無料配布しました。同団体は、震災後に避難生活を送っていた女性7人が、(公社)シャンティ国際ボランティア会の復興支援を受けて結成。現在も編み物などの作品を販売し、その収益を寄付に充てる活動をしています。代表の西川さんは「作品には復興支援への感謝の気持ちを込めています。鯨館で配ることができて嬉しいです」と笑顔を見せていました。

